

第三章 まとめ

本調査の主な結果を以下にまとめる。

<地震危険に対する意識等>

- ✓ 現在の居住地で大地震が起こる可能性について、「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率は、地震保険加入者は77.2%、地震保険非加入者は66.8%で、約10ポイントの差がある（p. 13）。
- ✓ 大地震に対する備えとして、地震保険加入者は、「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（24.5%）、「非常持ち出し品を準備した」（21.2%）、「土地や住居建物の購入または入居時に地盤や地形を考慮した」（19.5%）など、地震に対する備えを行っている比率が地震保険非加入者に比べて高い。一方で、地震保険非加入者は「何も行っておらず、今後の予定もない」が38.4%で、地震保険加入者の27.4%よりも約11ポイント高い（p. 22, 23）。
- ✓ 今までに地震で何らかの被害を受けた経験があるかについては、地震保険加入者と非加入者で大きな差はない（p. 24）。

<地震保険加入者への質問>

- ✓ 地震保険に加入した理由としては、住居建物と家財の両者とも、「火災保険とセットで契約したから」が最も高く、次いで、「住居建物の購入時に関係者（不動産・銀行等）に加入を勧められたから」、「地震による被害が心配だから」の順となっている（p. 27, 28）。
- ✓ 地震保険加入者に、地震保険の継続意思を質問したところ、「継続したい」と「まあ継続したい」を合わせた比率は87.3%を占める。一方、「継続したくない」と「あまり継続したくない」を合わせた比率は2.3%で、その理由をみると、「その他」が45.2%と最も高く、以下、「保険料の負担が大きいから」（19.3%）、「再建費用のすべてを賄うことができないから」「地域や構造によって料率が違うことに不公平を感じるから」（いずれも14.1%）の順となっている（p. 29）。

<地震保険非加入者への質問>

- ✓ 地震保険の認知度をみると、「名称を見聞きしたことがある程度」が52.9%で最も多く、次いで、「補償内容をだいたい知っている」が35.4%、「補償内容をよく知っている」が6.2%、「今までに見聞きしたことがない」が5.4%である（p. 32）。
- ✓ 地震保険を知ったきっかけは、「テレビまたはラジオのCM・番組」の比率が最も高く、「地震災害の報道」が次いでいる（p. 33）。
- ✓ 地震保険への加入検討の有無は、「検討したことはない」が48.2%で最も高く、「加

入したことはないが、検討したことはある」(42.7%)が次いでいる(p.34)。

- ✓ 住居建物の地震保険に加入していない理由は、家財の地震保険のみの加入者では、「賃貸住宅に住んでいるから」が90.7%と圧倒的に高い。地震保険非加入者でも、同理由が25.3%で最も高い(p.36,37)。
- ✓ 家財の地震保険に加入していない理由は、住居建物の地震保険のみの加入者では、「家財は消耗品と考えているから」が29.1%で最も高い。地震保険非加入者でも、同理由が17.8%で最も高い(p.38,39)。

<地震保険制度・地震保険料に対する意識>

- ✓ 地震保険の制度内容に対する認知状況をみると、全体的に、地震保険加入者の方が非加入者よりも制度内容を認知している割合が高い(p.40~43)。制度内容のうち最も認知度が高かったのは「火災保険では地震による火災は補償されないこと」で、地震保険加入者・非加入者ともに認知率が8割を超えている(p.40)。一方、最も認知度が低かったのは「保険料率に保険会社の利潤は含まれていないこと」であり、地震保険加入者では約5割、地震保険非加入者では約3割の認知率となっている(p.42)。
- ✓ 地震保険料の印象については、地震保険加入者・非加入者ともに半数以上が、高いと感じている(p.44)。保険料が高いと感じている人にその理由を聞くと、地震保険加入者・非加入者ともに「契約金額(保険金額)の割には高い」、「最高で住居建物の再築に必要な額の50%までしか補償されない割に高い」が上位2項目に挙がる(p.46)。
- ✓ 地震保険料の構造区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「リスクに応じてもっと細分化すべき」が3割程度、「区分数を減らし、もっと単純化すべき」が2割半ばである(p.48)。地震保険料の構造別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「妥当である」が38.7%、「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が36.3%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の5.4%を大きく上回る(p.50)。地震保険非加入者も、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2割程度を占める。
- ✓ 地震保険料の地域区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「区分数を減らし、もっと単純化すべき」が3割程度、「リスクに応じてもっと細分化すべき」が3割弱である(p.52)。保険料の都道府県別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が43.8%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の4.4%を大きく上回る(p.54)。地震保険非加入者においても、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2割程度を占める。

- ✓ 地震保険料の割引率の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が34.6%、「妥当である」が36.8%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の6.2%を大きく上回る（p. 55）。地震保険非加入者においても、同様の傾向となっている。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が2～3割程度を占める。

＜住居建物の属性＞

- ✓ 住居建物の建て方は、地震保険加入者・非加入者ともに「一戸建＜持ち家＞」が60%以上と最も比率が高い（p. 60）。しかし、2番目に比率が高い建て方については地震保険加入者・非加入者に差があり、地震保険加入者では「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」の24.1%だが、非加入者では「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」の22.2%となっている。地震保険加入者は『持ち家』の比率が90.1%であるのに対し、非加入者は74.7%と、約15ポイントの差がある。
- ✓ 建物の主な構造は、地震保険加入者・非加入者ともに「木造」の比率が5割台半ばである（p. 67）。
- ✓ 建物の建築時期は、地震保険加入者では「2001～2010年」と「2011年以降」の合計が45.7%であるのに対し、非加入者では32.7%と約13ポイントの差がある（p. 72）。
- ✓ 『共同住宅・長屋建』の地上階数は、地震保険加入者では「6～10階」が34.3%と最も高い（p. 76）。一方、地震保険非加入者では「3～5階」が33.5%と最も高い。また、「1～2階」の比率は、地震保険加入者が7.9%、非加入者が18.5%で、約11ポイントの差がある。
- ✓ 住居建物を建築・選定する際に耐震性をどの程度考慮したかについては、地震保険加入者では「耐震性が高いことをとても重視した」と「耐震性が高いことをある程度考えた」の合計が66.0%であるのに対し、非加入者では48.1%となっており、約18ポイントの差がある（p. 99）。

参考文献

- 1) 総務省統計局：平成27年国勢調査, <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.html>
- 2) 総務省統計局：平成30年住宅・土地統計調査, <http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/kekka.htm>
- 3) 損害保険料率算出機構：損害保険料率算出機構統計集（2018年度版）,
<https://www.giroj.or.jp/publication/statistics/>
- 4) 損害保険料率算出機構：地震危険に関する消費者意識調査（平成26年調査）, 地震保険研究28,
https://www.giroj.or.jp/publication/earthquake_research_1.html

